

# 誠心堂 防具は「防具」であるべき

群馬県前橋市には、新陰流の祖といわれる上泉伊勢守信綱の生誕地とされる場所がある。そこからほど近い場所に、誠心堂はある。

代表を務める田部井弘志さんは剣道教士七段。中学、高校時代は満足な防具が使うことができず、内革のない甲手を着けては、手の内に手ぬぐいを巻いて稽古をしていたという。そうした経緯からか、防具に対する愛着心は強く、社会人になって最初に手に入れた防具は約19年間、さらに地元で購入した二つ目の防具は24年経った現在も使いつづけている。

前橋商業高校を卒業後、いったんは県外の企業に就職するが、数年後には前橋に戻り、会社経理や営業職などを務めた。その間も剣道は継続してきた。

「地元の武道具店に行つては2、3時間お話を聞いて、竹刀や防具を自分で手直して使っていました。そのときは、自分が店を開くとは思っておらず、自然にやり方が身についていった感じです」

と、田部井さんはいう。  
50歳になった平成15年、一念発起をして会社を退職し、店舗を開いた。

「あまり人に使われるのが好きではなかったものですが、から(笑)。ほかの業種をすることも考えたのですが、武道具店の話が持ち上がったときには幸いなことに一気に話が進んだのです」

長年剣道続けてきた仲間から支援が得られたことも大きかった。創業時から地元武道具店からのバックアップを得、ミシンを譲り受けたり、積極的にメーカーに自

分の考え方を伝えて協力を得たりしてきた。「多くのところからかわいがっていただきました」と田部井さん。現在では13社のメーカーを取り扱っている。

防具に対して学んでいったことで、田部井さんは人一倍防具に対するこだわりを持つようになる。

「防具はその名の通り『防具』であるべきだと思っています。面であれば脳にダメージを与えてしまう可能性がある。本来の役割は身を守るものなのです。そうした防具を作るために、国内にいる職人の方にご協力をお願いしています。昔ながらのブランド品を組み込みながら、使い勝手のいい物を提供していきたいと考えています」

店舗にはできるだけ在庫を少なくすることもこだわりのひとつ。初めて剣道をする方のために見本を置いておく程度というスタンスだ。在庫を抱えることによるコストを削減したいからである。これは、長年の会社員生活で培った経験を活かしている。その代わりに、顧客と直接丁寧に面談をして、希望に沿った商品を提供するように心がけている。

「つねに商品は新しくいいものを、とと思って展示を少なくしているのですが、お客さまは不思議がります」

創業から10周年を迎える今年、新しい商品の開発を立案中だ。前橋少年剣士会の会長を務めるなど、一時期は年間250日の稽古してきた田部井さんも、ひとりのユーザーとして使用感をたしかめることができる。まずは自分で使用をして、使い勝手を見てから商品化をしていきたいという。



前橋工業高校の北側に店舗はある

群馬県前橋市上泉町 3338-2  
TEL・FAX 027-269-3159  
HP <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~seisindou/>  
ブログ <http://seisindou.at.webry.info/>

【剣道具】  
私の流儀

第二十七回

撮影◆窪田正仁